季刊 かばごん 2024 はる （No.110）

令和 6 年能登半島地震から 3 か月が経過しました。その後も余震が続いています。また全国各地で震度 3 ～ 5 の地震が起こっています。4 月 3 日には台湾で大きな地震がありました。地球内部の地殻変動が活発化しているのでしょうか？宇宙については何百億光年というはるか彼方のことまで分かりつつあるのに地球内部では深さ数キロメートルのことも分からないという、なんと不思議な事でしょうか。地震に備えるとはどうすればいいのでしょうか？家屋の構造を地震に耐えるようにすることは既存の建物では簡単にはできません。不幸にも地震に遭遇した時に、どのように行動するかを前もって模擬訓練しておくことが唯一できることなのかなと思います。帰省して被災した人、旅行に出かけて災難を免れた人、外に出て助かった人、様々なドラマがありました。生と死とは、まさに隣り合わせだとあらためて思い知らされました。

[最近目立つ病気]

新型コロナウィルス感染症の第 10 波は終息しました。しかし、なくなったのではなく、ポツポツと散発しています。かなり弱毒化した印象を持っていますが、高齢の方や基礎疾患のある方は要注意です。

A 型インフルエンザはほぼ見られなくなり、数年ぶりに大流行した B 型インフルエンザも終息に向かっています。溶連菌感染症は依然として流行しています。ウィルス性胃腸炎も流行中です。その他、RS ウィルス感染症やヒトメタニューモウィルス感染症も見られています。アデノウィルス感染症は減少しています。春休みに入ってから、感染症が少なくなった印象です。今後新学期が始まり再び各種感染症が増加する懸念があります。特に新入園児はご注意ください。

医薬品の供給不足はあいかわらず続いており、感冒に使用する咳止めや去痰剤が不足しています。また、インフルエンザの大流行で乳幼児の抗インフルエンザ薬（一般名オセルタミビルドライシロップ、先発品名タミフルドライシロップ）が不足しています。このため、タミフルは通常 5 日間処方ですが、今シーズン途中から 3 日間処方にしています。また、溶連菌やアデノウィルスの迅速抗原検査キットの不足は解消されています。

感染症は予防が一番大切です。ひき続き３密（密閉・密集・密接 ）を避けて、手洗いの励行、マスクの着用をお願いいたします。

[麻疹流行に対する麻しん含有ワクチン接種に関する考え方（予防接種推進専門協議会）抜粋]

麻疹の流行と、ワクチンの供給不足によって、予防接種推進専門協議会から以下のような提言が発せられました。一部抜粋して引用します。

『乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン（以下、MR ワクチン）の供給量には限度があります。また、現在のように、国内で麻疹が流行するとワクチン接種希望者が急増し、ワクチンの供給が追い付かない場合が生じます。従って予防接種推進専門協議会では以下のように優先順位を提案いたします。

優先度順位

① 第 1 期、第 2 期定期接種対象者（最優先）

② 麻疹に罹患するリスクが高い人（免疫力が低下している人、妊婦さん等）の周囲の方＊

＊妊娠中の風疹を予防するための、妊娠を希望する女性や妊婦さんの周囲の方への MR ワクチン接種も含みます

③ 海外渡航予定者や訪問者と空間を共有する機会が多い方

④ 年齢相応のワクチン未接種、並びに麻疹罹患歴なしの方

また風疹第 5 期定期接種対象者（昭和３７年度～昭和５３年度生まれの男性）は風疹抗体価を測定し、十分な風疹抗体価を保有しない方は MR ワクチンを接種することになるため、麻疹に対するワクチンを定期接種として接種することが可能です。なお、風疹第 5 期定期接種は 2025 年 3 月 31 日までの時限措置のため、早めに検査を受けるようにしてください。』

上記のような状態であり、当院では現在のワクチン入荷状況からすると当面は優先順位①の方に限ります。

[RS ウィルス母子免疫ワクチンについて]

令和 6 年 1 月 18 日に「妊婦への能動免疫による新生児及び乳児における RS ウイルスを原因とする下気道疾患の予防」を適応症として、組換え RS ウイルスワクチン（販売名：アブリスボ筋注用）が製造販売承認を取得し、販売に向けた準備が行われています。このワクチンについて、日本小児科学会は以下のように声明を出しています。『本ワクチンは、基礎疾患のない乳児に対する RS ウイルス感染症の予防に寄与することが期待されます。我が国の新生児・乳児・幼児の RS ウイルス感染症の予防や重症化抑制に関連学会と協働で取り組んでいきます。』

乳児期早期に RS ウィルスに感染すると重症化することが多いため、低出生体重児や基礎疾患のある児にはシナジス（抗 RS ウイルスヒト化モノクローナル抗体）が受動免疫として使われています。しかし、これまで正常児には予防策がありませんでした。今後は母子免疫を利用して予防する方法が推奨されます。

[15 価肺炎球菌ワクチン定期接種化]

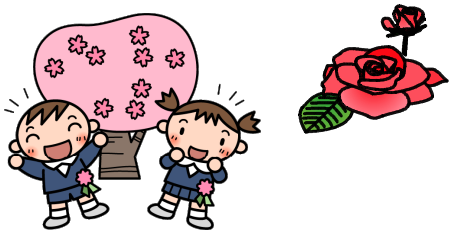
令和 6 年 4 月から 13 価のワクチン（プレベナー 13）に代わって 15 価のワクチン（バクニュバンス）が定期接種化され、使用されています。局所の発赤腫脹や発熱（38 ℃以上）は乳児では約 5 割の確率でみられます。機嫌や哺乳状態に問題なければそのまま様子をみられてかまいません。半日から 1 日程度で平熱に戻ります。

[５種混合ワクチン定期接種化]

これまで乳幼児が別々に打っていた 4 種混合とインフルエンザ菌 b 型（ヒブ）のワクチンについて、二つを合わせた５種混合ワクチンの定期接種が令和 6 年 4 月から開始されました。原則、令和 6 年 2 月生まれの児からです。対象年齢は生後２カ月から 7 歳半まで。生後 7 カ月までに接種を開始し、計 4 回接種します。接種開始年齢が 7 か月以上となっても接種回数は減らさずに計 4 回です。

☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター（℡:222-0099）では 19 時 30 分から 23 時まで小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は 5/3、8/8 の予定です。なお 6/30 は、急病センターでの当番医の予定です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院の Hp（https://kabata-cl.jp）から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約ができますので、ご利用ください。

☆世界の宝「憲法 9 条」を次の世代に贈りましょう。